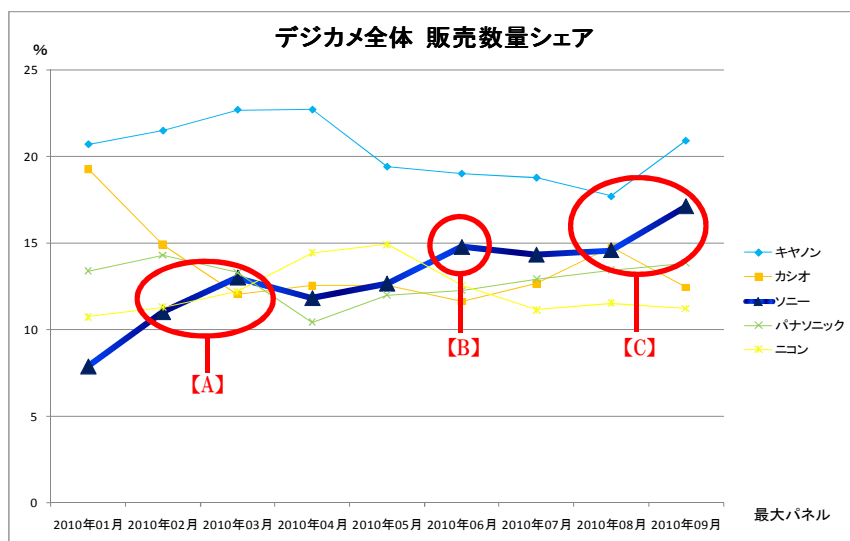


デジタルカメラ市場でのメーカーシェアに変化！

新商品がカメラユーザーのニーズにマッチし、
 カテゴリー毎に存在感増すソニー製品
 ～デジタル一眼カメラ市場は3強時代へ突入～

この度、ソニーのデジタルカメラ製品が、9月のBCNランキングのデジタルカメラ総合メーカー別販売台数シェア(9月1日-9月30日)におきまして、販売台数シェア17.1%で2位に躍進。また金額シェアにおきましても2位となりました。



※出展:BCNランキング

デジタルカメラの個人所有率が94.4%(※1)と市場が飽和状態となった今日、2009年に続き、2010年もダウントレンドが予測されていましたが、予想に反し、販売台数の伸びは1月から9か月連続で2桁成長を記録、一転好調な状況となっております。その要因として、今年ソニーが発売した新商品(コンパクトデジタルカメラ、デジタル一眼カメラともに)が好調な推移を見せ、市場を牽引していると考えられます。

【A】世界初(※2)フルハイビジョン動画モデルの登場

レンズ一体型デジタルスチルカメラとして世界初(※2)となるフルハイビジョン(以下、フルHD)動画撮影の機能を搭載した“サイバーショット”「DSC-TX7」「DSC-HX5V」が今年の2月、3月に発売。中でも「DSC-HX5V」はフルHD動画の撮影に加え、光学10倍ズーム、GPS機能など高付加価値な機能がカメラユーザーに高く評価され高価格帯モデルとしては、異例のヒットモデルとなりました。

【B】ミラーレス一眼カメラ「NEX」シリーズの登場

今まで購入を検討しつつも、その大きさや重さ、撮影の難しさといった点から断念していた層に大きなインパクトを与えた、ミラーレス一眼「NEX」シリーズが6月に登場。コンパクトデジタルカメラに迫るボディの小型化、一眼レフカメラと同等の高画質性能を両立し、既存のミラーレスモデルと一線を画すデザインが女性や、一眼のエントリー層を中心とした層に大きく受け入れられ、発売から現在に至るまで好調な売り上げが続いています。

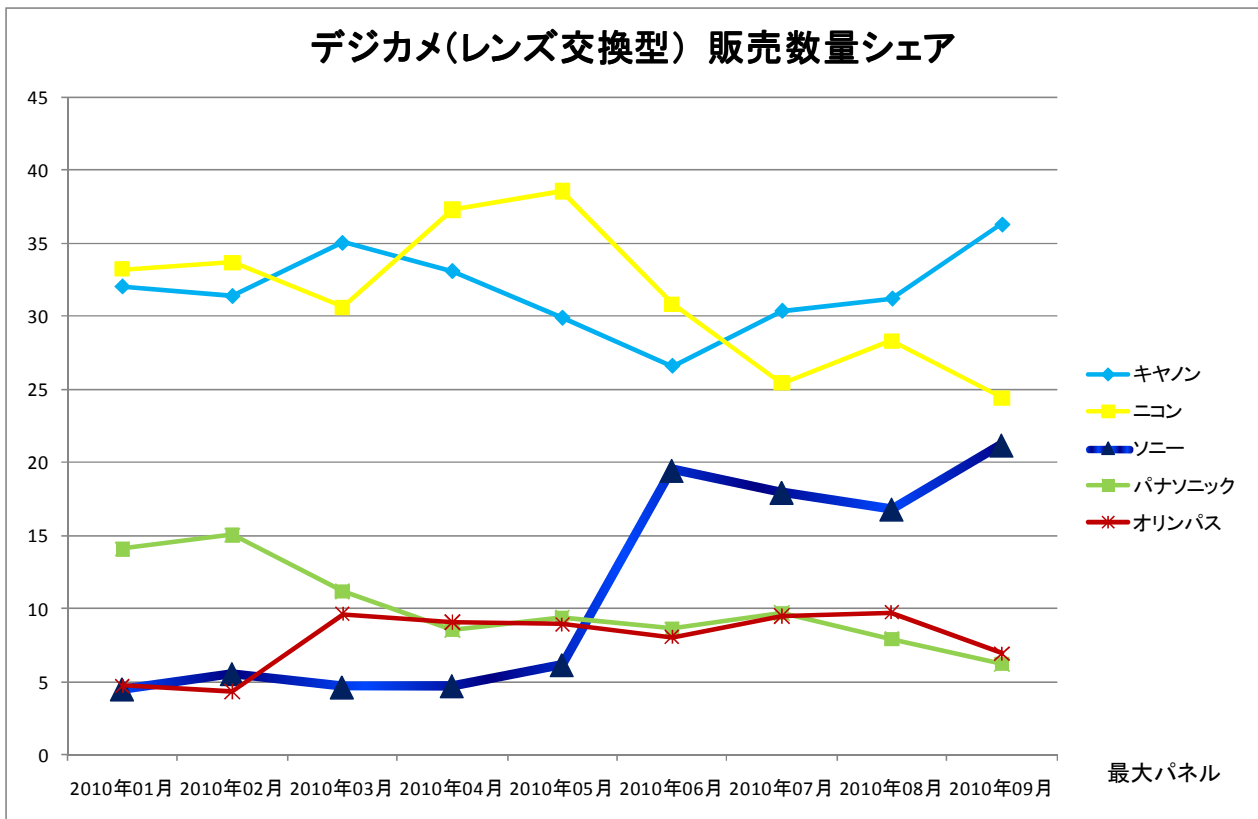
【C】“サイバーショット”フルHDモデルの拡充と“α 33・55”の登場

8月にはフルHD動画撮影モデルの“サイバーショット”「DSC-WX5」「DSC-TX9」が発売。TVCMやキャンペーンサイトと連動した、コンパクトデジタルカメラでフルHD動画撮影という新しいカメラの楽しみ方(価値)の提案が、週末旅行など外出先で撮影頻度が高い女性ユーザーからの支持を集め、コンパクトデジタルカメラの新たなトレンドを形成しています。また発売前からネット上で話題になっていた世界初(※3)の透過型ミラー搭載モデルの“α 33”・“α 55”が登場した9月には、デジタル一眼カメラの販売台数シェアに関しましても今まで2強であったキヤノン、ニコンに迫る勢いで、シェアを拡大しております。

(※1) 第38回価格.comリサーチ『カメラ利用状況アンケート』結果(調査期間:2010年2月1日～2010年2月8日)より

(※2) 2010年2月発売時点。

(※3) 2010年広報発表時点。レンズ交換型デジタルカメラにおいて。



※出展:BCNランキング

■ 株式会社BCN:エグゼクティブアナリスト 道越 一郎氏の市場分析

デジカメ市場は年初から好調が続いている。苦戦が続いた09年から一転、販売台数の伸びは1月から9カ月連続で2桁成長を持続。過去3年でも最高の販売台数を記録し続けている。中でも注目はデジタル一眼(レンズ交換型デジカメ)市場だ。1年前まではデジカメ市場全体のうち販売台数で10.0%、金額で28.9%という規模だったが、9月には、台数で14.8%、金額で42.3%と拡大してきた。その原動力ともいえるのが「ミラーレス一眼」だ。オリンパス、パナソニックのマイクロフォーサーズ陣営に加え、6月にソニーが意欲的なデザインとスペックで注目を集めたNEXで参入。市場は一気に活気付いた。既にデジタル一眼の4分の1はミラーレスモデルになっており、今後も拡大が予想される。さらにソニーは9月、透過型ミラーを搭載し常にAFを動作させ続けられる画期的なデジタル一眼、“α55”、“α33”を投入。NEXとの相乗効果でソニーはデジタル一眼のシェアを3位、21.2%に押し上げた。2位ニコンとの差はわずか3.2ポイント。キヤノン、ニコンの2強に激しく迫っている。NEXも“α”新シリーズも、これまでにない新しいカメラの形を、勇気をもって提案したわけだが、いずれもユーザーにしっかりと受け入れられている。これからのソニーの挑戦に期待したい。

■ 株式会社カカコム:執行役員 / メディアクリエイティブ部 部長 鎌田 剛氏の消費者分析

価格.comの「デジタル一眼レフカメラ」カテゴリにおけるメーカー別のアクセス数推移では、今年の5月から劇的な変化が起こっている。これまではこのカテゴリで紛れもない2強メーカーであったキヤノンとニコンのアクセス数に対してソニーが急激に迫り、ある週では逆転するという状況すら見られるようになったのだ。この爆発的とも言える人気上昇は、間違いなく、5月に発表された“α”「NEX-5D」の人気によって引き起こされたもの。さらに、キヤノン・ニコンの2社が新モデルを発表したことで大いに盛り上がりを見せた8月以降になると、今度は新モデル“α55”が人気となり、2社の主要モデルのアクセス増にも見事に追随してきた。こうした流れを見ると、ソニーの“α”シリーズが、多くのカメラファンの心をしっかりとつかんできていることがわかる。今デジタル一眼レフカメラ市場は、キヤノン・ニコンの2強時代からソニーを含んだ3強時代へと移りつつあるのかもしれない。